

平成30年 8 月28日

西脇市議会議長  
林 晴信 様

総務産業常任委員会  
委員長 坂部武美

## 西脇市内 3 商店街と総務産業常任委員会との課題懇談会報告書

みだしのことについて、下記のとおり報告します。

### 記

#### 1 課題懇談会先

自由空間きらら、協同組合西脇商連、西脇しばざくら通り商店会協同組合

#### 2 課題懇談会の目的と課題内容

総務産業常任委員会では、所管する中心市街地の活性化の観点から、新庁舎周辺のまち歩きを行うなど、にぎわいづくりについて調査しているが、空家、空店舗が増えているという課題がある中で、商業振興については西脇市のまちづくり、経済振興に欠かすことのできないものであることから、まずは、市内の 3 商店街から下記の 3 項目について意見交換を行い、今後の施策展開の参考とすることとした。

- (1) 3 商店街の現状と今後の課題
- (2) 市庁舎が移転することによる効果、影響等
- (3) 西脇市全体の商業振興等について

#### 3 懇談内容

懇談内容及び総務産業常任委員会としての 3 商店街への回答については次のとおり。

なお、出された意見の中で、常任委員会で検討すべき項目については、今後、調査を進める。

## ■ 自由空間きらら

1 実施日 平成30年7月18日(木) 19:00~20:45

2 ところ 上野会館2階 大会議室

### 3 出席者

<自由空間きらら>

会長／見坂恵介(ミサカ印刷)、副会長／繁田直代(スキンケアハウスMOMO)、顧問／藤本昌宏(クレパス)、監事／生田悟(クチュール・アダモ)、  
会員／藤井哲也(旭商会)、大坪広樹(メガネの水晶堂)、岡田祐介(居酒屋 団)  
飛田達也(アート飛田)、戸田康雄(トダ電化) 以上9人

<西脇市議会>

総務産業常任委員会委員長／坂部武美、副委員長／村井公平、委員／寺北建樹、村井正信、浅田康子、高瀬洋、近藤文博 以上7人

<傍聴>

議長／林晴信、議員／中川正則、岩崎貞則、岡崎義樹、村岡栄紀、美土路祐子、吉井敏恭 戸田商工観光課長 以上8人

## 4 懇談概要

○出された意見

- (1) 人通りが減少し厳しい覚悟の賑わいづくりが商店街としては大きな課題である。
- (2) 個人病院跡も商業施設ではなく住宅となり、商業の衰退を感じている。
- (3) 新庁舎への期待は大きく、庁舎の来場者が徒歩で回遊できる位置づけにきららを考えたい。
- (4) 特に不足すると見込まれる新庁舎周辺の借り上げ駐車場の候補地ときらら商店街とが連携できる立地になればいい。駐車場からきららへの誘導。
- (5) 西脇病院の職員駐車場を有意義に利活用できないか。商店街に隣接しており、集客の目玉となる施設への転換を図れないか。
- (6) 歩道幅を広げ、オープンカフェができるような道路整備(特に病院までの間)ができれば賑わいが創出できる。
- (7) 新規事業や起業に向けての補助・支援については民間を信用し審議にもっと熱意をもって後押しすることが肝要である。
- (8) 商店街の活性化においては、若干の補助もあるが、全体として手弁当が圧倒的で、今後の更なる活性化に向けた活動には今以上の充実を希望する。繊維関連だけでなく、サービス業にももっと目を向けるべきである。
- (9) 今後も増加する空地や空家の活用は20~30年先を見据えた都市計画となっているのか。
- (10) 交通の利便性の向上を図り、特に高齢者の移動のニーズに適したシステムが望まれる。京丹後市の方式を見習うべきである。
- (11) 西脇市への交流人口、定住人口を確保するためには、例えば当市の強みを活かして、当市でしかできない西脇ファッション工科大学を設立することを提案する。
- (12) 西脇市まちなか交流館条例(平成17年10月 条例26号)の改正の要望あり。現在

の情報未来館のYシャツ売り場を播州織工房館に移行し、売り上げの一元化を図る。  
また現在の未来館は観光等の案内所の位置づけとしたい。委託を受けている商工会議所も同意している

(13) (その他) 監事の生田氏から上比延の道路整備に関して出された。

## ○総務産業常任委員会としての回答

### 1 (5)の「西脇病院職員駐車場の商業施設として利活用」について

西脇病院としては現状のまま職員駐車場とする予定であり、市としては駐車場を廃止し商業施設を誘致する計画はないとのことである。総務産業常任委員会としては、現段階では駐車場としての利用が妥当と考える。

### 2 (11)の「西脇市でしかできない西脇ファッション工科大学の設立」について

市としては、以前に大学や学科の誘致をアプローチしたことがあるが、大学側は乗り気ではない。西脇市立の大学の設置は費用、場所等の課題が大きすぎるため現在のところ計画はないが、ものづくりの支援を行いながら、ひとつづくりも行える施設として「仮称：ものづくり支援大学校」の設置の可能性を研究している。

総務産業常任委員会としても、大学の設置については、課題が大きすぎるが、現在、神戸工科大学と連携しているファッション都市としての推進及びオープンキャンパスやフィールドワークとしての展開は今後も続けていく必要があると考える。

### 3 (12)の「情報未来館の播州織工房館への移行」について

まちななか交流館条例では、①地域特産品情報コーナー（情報未来館）②休憩サービスコーナー（梅吉亭）③交流コーナー（TMO諸室）の3つの機能について定めている。今回の要望では、①地域特産品情報コーナーを観光等の案内所と改め、併せて条例の改正を求めているが、その場合、特産品の情報発信をどのように実施していくのか調整が必要になるとともに、観光協会が商工会議所に委託している観光案内業務（同一敷地内にある旧来住家住宅内で実施）についても再検討する必要があると思われる。

さらに、オーダーシャツの販売を含め情報未来館が実施している事業を播州織工房館の事業に統合するのであれば、まちななか交流館等が実施する事業への相乗効果を狙った播州織工房館に対する市の補助について、見直す必要も生じると考えられる。

総務産業常任委員会としては、事業実施主体である西脇商工会議所が今後の事業計画を明確にした上で、関係課と調整していただきたいと考える。

## ■ 協同組合西脇商連

1 実施日 平成30年7月27日(金)19:00~20:45

2 ところ 西脇商工会議所2階会議室

### 3 出席者

<西脇商連>

理事長/小林雅文(ホーライカメラ)、会員/飯田敏史・畑尾信弘・牧野肇(コープこうべ)、藤原秀樹(藤原商店)、長谷川久三(はせがわ)、頃安芳昭(コロヤス)、田中宏幸(ギフトハウスタナカ)、末廣光祐(すえひろ楽器店)、片岡けい奈(片岡商店)、松岡義一(商工会議所) 以上11人

<西脇市議会>

総務産業常任委員会委員長/坂部武美、副委員長/村井公平 委員/寺北建樹、村井正信、高瀬洋、近藤文博 以上6人

<傍聴>

議員/中川正則、岡崎義樹、村岡栄紀、美土路祐子、吉井敏恭 以上5人

### 4 懇談概要

- (1) 商売は売る対象相手つまり人が少ないとダメである。西脇市は人口が減り続けている。
- (2) 以前は、丹波や多可の人も西脇に買い物に来ていたが、今は、ゆめタウンやイオンに取られている。
- (3) 西脇市役所の物品購入の発注には市外の業者が来る。価格競争も厳しい。
- (4) 商工労政費の割合は西脇市は低いと思う。
- (5) 播州織以外にこれからどういう分野を育てるのか、「つりばり」なのか新規の顔が見えない。
- (6) 量販店に顧客を取られないよう努力しないといけないが、何をどうすれば良いのかが見えない。
- (7) 過去をふり返れば、日本臓器の西脇進出やグリコの問題など、その時々行政や市民も反省すべき歴史があった。
- (8) 工業団地をもっと整備できればいいが、これには地目の変更が伴い、市民間の利害がからむので簡単にはいかない。
- (9) 西脇は災害が少ないので倉庫業やパッキングビジネスに向いていると思う。
- (10) ネットを活用するとマーケットが大きい。東田ドライなどネットを活用して成功している例である。
- (11) コープ神戸西脇店は、10年前に比べると売り上げが4割下がっている。顧客が来るのを待つのではなく、共同購入などにも力を入れている。  
(行商ビジネスはどうかとの質問に) 行商は行く場所があつて、行けば必ず来るとか来るのを地域が熱望しているといった条件が揃わないとうまくいかない。
- (12) 今のお年寄は情報機器は使えない人が殆どだが、先々ではお年寄もタブレットで共同購入や決済という時代も想像できる。
- (13) 西脇の人は歩かないので店の直ぐそばまで車で乗り入れられないとダメである。ま

た、普段の買い物はコスモスなどで行い、よそ行きの買い物は外ですといった傾向がある。

地元で税金を落とす仕掛けが必要である。

- (14) 西脇は人のやらないことに手を出したり、自分が一番になろうとする人は少ないので、こういうまちにするという播州織に代わるビジョンを市長が打ち出すことを望む。
- (15) 小野市はマスコミを上手に利用しているが、西脇は下手である。小野祭はPRに5千万円も使っている。
- (16) ネットの活用の話があったが、お年寄が外での買い物を通じてコミュニケーションが深まったり、楽しみながらオシャレに買い物ができることも大切である。

## ○総務産業常任委員会としての回答

### 1 全体として「中心市街地の活性化」について

市は新庁舎と市民交流施設の建設によって、周辺及び中心市街地のにぎわいづくり・活性化を目指しているが、そのことによって大きく影響を受けるとともに対策が求められると思われるのが西脇商連であると言える。

その中で、どのように商業振興を図っていくかについては、懇談内容からは、各商店が独自の生き残り策を講じていくかしかないとの思いを持たれていると感じた。

総務産業常任委員会としては、現在計画づくりが進められている都市計画マスタープランや立地適正化計画、さらに、中心市街地活性化基本計画と商業振興がどう結びついていくのかを議論しながら、楽しく買い物ができ、人と人との交流が生まれるなど、商業としての役割の重要性を認識した中で、今後の商業振興の方向性を見出したいと考える。

## ■ 西脇しばざくら通り商店会協同組合

1 実施日 平成30年7月31日(火)19:30~21:00

2 ところ みらいえ会議室1

### 3 出席者

<しばざくら商店会>

理事長/中原克己(ブティックスマイル)、副理事長/宇仁菅勸(ウニスガ印刷) 理事/木川静香(メガネの木川)、稲垣淳子(イナガキ事務機) 以上4人

<西脇市議会>

総務産業常任委員会委員長/坂部武美、委員/寺北建樹、村井正信、高瀬洋、近藤文博 以上5人

<傍聴>

議員/中川正則、村岡栄紀、美土路祐子、吉井敏恭 戸田商工労政課長 以上5人

### 4 懇談概要

- (1) 夏祭りは多くの人に来てにぎわった。今年は野村町も協力いただいたので助かったが、継続していくのが大変である。
- (2) 100円商店街は、自分の店の前で売込みできるのでやりやすい。チラシを周辺市町に入れれば人は来る。印刷費は高くなるが。
- (3) 花いっぱい、御越安前の花壇と小坂田医院角に植えているが、管理が大変。重小フェンス前の三角地は今後の課題。高齢者が一服できる東屋もあれば休憩と交流が図れる。店の前のプランターは自分たちで管理している。
- (4) 新会員も入っているので維持はできている。
- (5) 市場の広場を利用したちょっとしたイベントは打てる。例えば、産業フェスタ。
- (6) ハロウィンなど3商店街の連携も考えて、顧客の呼び込みを行っている。

### ○総務産業常任委員会としての回答

#### 1 (1)の「夏祭りの地区の祭りとしての位置づけ」について

総務産業常任委員会としても、しばざくら通りの夏祭りは、野村町の夏祭りとして定着していると感じる。地区の祭りとして位置付けられれば、市からの補助も考えられる。まずは野村町と調整され、市へ要望されたい。

#### 2 (3)の「重小フェンス前の三角地の花壇整備」について

総務産業常任委員会としても、三角地に市の花・シバザクラの普及は必要と考える。解決策としては、野村町のまちづくりとも関連するため、まちづくりとしての取組も含めて野村町と十分に調整のうえ、取組手法を決定されたい。